

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第54回『「病理学の真髄 ～ 開いた扇の要 ～』

『「がんと生きる言葉の処方箋」応援チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCc4rcVO_bMtoKYyUaSjIxLg を纏めた「電子書籍」を間もなく幻冬舎から出版されます。』との連絡が届いた。応援チャンネル70回目に到達したとのことである。歴史的大事業である！ドキュメンタリー映画『がんと生きる言葉の処方箋』は「文部科学省選定、厚生労働省推薦」で、DVD（日本語字幕・音声ガイド）が、最近作製された。英語版も制作される予感がする。

第110回日本病理学会総会（2021年4月22日～24日、京王プラザホテルに於いて）に出席した。今年は、北川昌伸 大会長（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 包括病理学分野 教授）のもと、テーマは、『病理学の挑戦 — 伝統的学問からインテリジェントパソロジーまで』であった（画像）。筆者は、2010年 今回と同じ会場で、大会長として『第99回日本病理学会総会（2010年4月27日～29日）「広々とした病理学 — 深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静 —」』企画したことが、鮮明に蘇ってきた。想えば、筆者は、癌研時代、1995（平成7）第41回（東京）日本病理学会秋期特別総会で、**学術研究賞（A演説）**『ヒト結節性硬化症（TSC2）の疾患モデル（Eker rat）の発癌病理』の機会が与えられた。「学術研究賞は、本学会会員による優れた研究に対して授与される賞で以下の要件が必要です。（1）優れており、かつ蓄積された研究であること。（2）原則として日本国内で行われた研究であること。（3）内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。」と謳われている。そして、2002年には、第91回日本病理学会総会（横浜）での宿題報告『癌性化境遇-炎症による肝癌と遺伝による人癌に学ぶ』の時が与えられた。「日本病理学会賞（宿題報告）は、病理学領域における特定の課題について卓越した業績を挙げていると判断された会員が、その課題の業績を日本病理学会総会において報告し、もって会員の病理に関する学術、医療の振興とその普及に資することを企図して設けられた宿題報告の担当者に授与されます。宿題

報告は1911年開催の第1回総会から行われ100年以上の歴史があります。」と高らかに提示されている。歩みは、階段を上る如く「不連続の連続性」である。

「純度の高い専門性と社会的包容力」は、病理学の真髄であり、実践である。

- 1) 「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」
- 2) 『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』
- 3) 『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

2021年4月23日は親族の息子の結婚式にwifeと隣席した(麻布迎賓館に於いて)。若き日に大変お世話になった91歳の叔母様にも久しぶりにお逢い出来、本当に貴重な時が与えられた。まさに、「人生は開いた扇の要」である。

病理学の 挑戦

伝統的学問から
インテリジェント
パソロジーまで

会 期 2021年 4月22日(木) ~ 24日(土)

会 場 京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

会 長 北川 昌伸 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 包括病理学分野 教授)

副 会 長 大橋 健一 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 人体病理学分野 教授)